Issue No. 2 SEP 2012

ISOM Japan NEWS Letter

第 16 回国際東洋医学会開催さる

2012 年 9 月 14･15･16 日の３日間、韓国ソウル市のコエックス COEX にて、第 16 回国際東洋医学学術大会が、開催された。今回の ICOM は、許俊（ホジュン）の『東医宝鑑』が出版されてから 400 年の節目に当たる 2013 年の世界伝統医薬 EXPO（韓国・山清郡）に先立ち、そのプレ EXPO としての役割も果たしているため、いつもの大会とやや雰囲気が異なっていた。

世界 50 カ国を超す国々から参集、日本からも 100 人を超す参加

学会には、韓国国内より約 15,000 人、海外から約 1,000 人が参加し、これまでにない大規模な学会となった。日本からは 100 人を超す参加者があり、日本人による講演は、基調講演１題、招待講演２題のほか、関係シンポジウム３セッション、口演 17 題、ポスターセッション 38 題という、これまでに海外で開催された ICOM では最大級の演題発表となった。ヨーロッパ、アメリカ、アジア諸国からも多数の招待演者を含む参加があり、会場は沸いた。

このうち、30 数カ国から招待された人たちによる招待講演があった。以下の通り。

イギリス、ドイツ、フランス、スイス、オーストリア、ベルギー、オランダ、ノルウェイ、フィンランド、ギリシア、ブルガリア、ロシア、USA、カナダ、ブラジル、モンゴル、カザフスタン、ウズベキスタン、タイ、スリランカ、インド、インドネシア、ベトナム、エジプト、南アフリカ、オーストラリア、ニュージーランド、香港、中国、台湾、日本など。

金正坤 第 16 回 ICOM 会頭の挨拶

おはようございます、ご参会の皆様

最初に世界伝統医学の専門家たちの祝祭である国際東洋医学学術大会に参加していただいた各国の専門家の方々と保険当局関係者の皆さんに歓迎と感謝の挨拶を申し上げます。

今年 16 回目を迎えた国際東洋医学学術大会は、1976 年大韓韓医師協会の主催で伝統医学の優秀性を全世界に広めるために開催されて以来、今では世界最高の歴史と権威を誇る国際学術大会に成長しました。

特に大韓民国ソウルで開かれる今回の第 16 回 国際東洋医学学術大会は、‘東医宝鑑’発刊 400 周年を記念して‘ユネスコ記念の年’に指定された 2013 年に開かれる‘2013 サンチョン世界伝統医薬エキスポ’のプレエキスポの一環として行われるという点で、ほかにはない意味を持っています。

‘医学の未来、伝統医学’という主題で開催される今回の国際東洋医学会学術大会は、長い歴史と臨床経験を誇りとする伝統医学の過去を顧みることで、伝統医学の医学的・学術的・文化的価値を再評価して、各国の伝統医学に対する最近の最新研究成果をお互いに共有することで、伝統医学の標準化と客観化のための解決方法を探し出す貴重な場になると確信しています。

加えて、今回、国際東洋医学学術大会の会期中に、50 カ国以上の国から‘世界伝統医学製薬産業の現状“EBM に基づいた伝統医学’など 330 篇の論文が発表され、‘東医宝鑑国際学術シンポジウム”鍼灸と EBM 医学’などを始めとした、いろいろな主題のワークショップと、韓医薬産業の現状をひと目で知ることが出来る‘韓医薬産業展示会’など、豊かなイベントも開催されることで、今後の人類の健康と安寧を約束する本当の意味での‘未来医学’としての伝統医学に対するビジョンと方向を提示する意味深い大会になる事を期待します。

世界保健機構と世界銀行の報告書によれば、世界伝統医薬市場の規模は 2009 年に 2500 億ドルを超えて、

すでに IT 市場の規模を追い越して 2050 年にはなんと 5 兆ドルにまでなると予想される高度の成長が期待される分野です。

また、最近全世界的に高齢化社会に入りながら、慢性・退行性・老人性疾患と各種難治性疾患等の予防と治療に卓越な効果を見せている伝統医学に対する関心が日毎に高くなっており、人類の生活の質的向上と寿命延長に大きな寄与をする医学としてその価値が高く評価されています。

それでは、今回の第 16 回国際東洋医学学術大会がこのような大きな関心と脚光を受けている伝統医学の発展方案を多角的に真剣に論議する貴重な時間になることを心から祈っています。

もう一度、第 16 回国際東洋医学学術大会に参加していただいた世界伝統医学の専門家、各国保険当局の関係者の方々に感謝の言葉を差し上げ、今日この場に参席していただいたすべての方の家庭に健康と幸福が満ちることをお祈りいたします。

有難う御座いました

崔煥英　ISOM 会長の挨拶

親愛なる全世界東洋医学研究者とその関係者の方々。今回 第 16 回 国際東洋医学学術大会に参加していただいた内外貴賓の皆様、本当に歓迎いたします

今回の大会は、東医宝鑑発刊 400 年を記念して国際東洋医学会と 2013 サンチョン世界伝統医薬エキスポ組織委員会の共同主催で開催され、全世界 50 カ国以上の著名な学者、専門家、それに政府関係者が参加する過去の大会の中でもその規模と内容面において最高の学術大会だと思われます。

世界的に産業化と人口の老齢化による多様な複合原因による慢性難治性疾患の増加は、現代西洋医学の限界とともに、自然と伝統医学に対する世界的関心をその需要と一緒に呼び起こしています。

このような世界的潮流は一部ではあるが、科学化と EBM 医学にと変化が求められる肯定的な面もありますが、伝統医学の一部断片的効能、知識、情報が代替医学または補完医学という名前のもとで西洋医学的観点から安易に評価されたり使用され、伝統医学の伝統的医哲学的価値が毀損されたり、歪曲される深刻な否定的面も一部起こっています。

したがって伝統医学の気と経絡の実体が現代科学の水準では明らかにできない現在的状況で、伝統医学の医哲学価値が既存の現代科学的物差しでむやみに評価されたり、標準化などに利用されてはいけないと思います。

親愛なる世界伝統医学研究者のみなさん！

今回の大会が伝統医学の歴史と臨床経験を再評価して再確認する契機になると思います。

しかしそれよりも、既存の西洋医学の方法論的接近とは本質的に違う、伝統医学の方法論的価値をもっと大切にしてしっかりと守ることに大きな意義があると考えられます。

そして、伝統医学的方法論で新種疾患、脳と心など最新臨床研究結果が発表され伝統医学の優秀性が世界の医学界に知らされるのと同時に、世界の医学のなかで伝統医学が一つの大きな柱であるということを提示できる大会になることを心から期待いたします。

再度、第 16 回 国際東洋医学学術大会に参加していただいた国内外の専門家、政府関係者の皆さんを歓迎いたします。ソウルでの日々を楽しく快適におすごしください

有難う御座いました。

多彩なプログラムと高度な講演内容

今回の学術大会は、講演およびテーマごとのシンポジウム形式が主で、一般講演の多くはポスター発表となった。各セッションのテーマは、以下の如くである。

講演

各国の伝統医学
近年の症例報告（日本）
近年の症例報告（台湾）
伝統医学と文化

薬剤の安全性と乱用
伝統医学の標準
エビデンスに基づく伝統医学
世界の伝統医学の製薬産業の現状
老年医学
女性医学と伝統医学
予防医学と伝統医学
環境と伝統医学
医療美容（皮膚）
医療美容（肥満）
U 医学
統合医療
難治性疾患

ワークショップおよびシンポジウム

KOMS 主催：座談会「CAM の傾向と関連ジャーナル」
KOMS/JSOM 主催：日韓学術交流シンポジウム
傷寒金匱医学会主催：張仲景の『傷寒雑病論』による未来の伝統医学
東医宝鑑センター主催：伝統医学の知識・分類と保護
韓国鍼灸学会/日本鍼灸学会主催：鍼と EBM
韓国女医会主催：美容成形
四象体質医学会主催：四象医学と未来
推拿医学会主催：椎間板ヘルニアのエビデンスと実際
KOMS 主催：第 16 回韓中学術大会
韓国東洋医学会/日本日韓シンポ実行委員会主催：第 20 回日韓東洋医学シンポジウム
圓光大学校/韓国韓医学研究院主催：「稀で難治性の神経系疾患（ALS/MND）」

これらのテーマは、毎回の ICOM でひきつがれて議論されているもの、近年のトピックスとして注目されているもの、韓国に独特のもの、日本や台湾の特徴のよく出たものなど、多彩である。韓国独特のものとしては、四象体質学会のシンポジウムが目を引く。また「傷寒金匱医学会」は吉益東洞を遵奉する学会で、今回は寺澤捷年先生を招聘して長時間の討議を行った。また、美容関係も韓国独特で、特に女医さんの間で評判を呼んでいた。近年のトピックスとしては、やはり、エビデンスに関するものが注目された。難治性疾患も漢方治療が期待されるところで、これは毎回のテーマである。今回、特に日本と台湾の症例報告のセッションが設けられたのは、1 例報告を通じてこれらの国の医学を理解するという動きの表れと思われる。

見事な学会運営

開始前、登録などの通信関係でいくつかのトラブルに見舞われたが、実際の学会運営は見事の一言に尽きる。

レジストレーションには大勢の受付係がずらりと並び、登録に来られた方たちにてきぱきと対応し、人の流れが滞ることはない。会場内も専門の係員が的確な動きでセッションを支え、どの会場もスムーズに進行している（係員などすべて韓医大生のボランティア）。

時間の遅れもほとんどなく、どの会場もほぼ満席に近い状況で、質疑応答も活発に行われ、参加者全員の強い関心がうかがわれた。

会場の一風景

驚嘆すべき同時通訳陣

演者が話し始めると、機関銃のような勢いで訳し始め、演者が話し終わると、その 1 秒後には全てを翻訳し終わっている。英語でも日本語でも中国語でも韓国語でも、全く変わらず見事に正確に翻訳する同時通訳陣は、素晴らしいの一言に尽きる。

日本人も韓国人も台湾人も英語は母国語ではない。にもかかわらず、これらの国の人々が互いに意思を通じるには、英語が最も良いことは誰もが理解している。しかし、今回の ICOM で韓国の運営委員会はもう一つの方法があることを、見事に証明して見せた。同時通訳の充実である。これまでの ICOM でこれほどの通訳陣を揃えたところがあっただろうか。

今回の大会の成功の大きな要因の一つは、この同時通訳陣の能力が極めて高かったことと無関係ではない。今後の ICOM は、あるいは今後の国際学会はこれを見習うべきであろう。皆で賞賛の拍手を贈ろう。

ガラパーティー

ガラパーティーは、10 月 13 日の午後 6 時から、和やかな雰囲気のうちに開始された。手品や民族楽器の演奏などとともに、各国代表が次々に登場して挨拶され、この学会が本当に国際色豊かな学会になったことを印象づけた。

各テーブルには各国の参加者が入り乱れて議論が白熱し、また各テーブル間でも盛んに交流が持たれ、名刺交換も盛んに行われていた。台湾からは、これまでほとんど国際的に知られていなかった中医師公会（中医師会）の方が多数参加されていたのが目を引いた(韓医師協会と中医師公会と MOU を結んでいるとのこと)。今回はヨーロッパからの参加者が多く、彼らの話は東洋の人たちの注目を集めていた。

ガラパーティーの一風景。左端が手品師。その右側の女性が今回の学会の立役者・柳銀景準備委員長

ISOM 理事会報告

9 月 16 日午前 8 時から、国際東洋医学会理事会が開催された。李応世事務総長の司会のもと、崔煥英会長の挨拶に続き、金正坤 ICOM16 大会長が今回の大会に関する各国の協力に対する感謝が述べられた。次いで名誉会長である中田敬吾先生に談話が求められ、中田先生は今回の韓国のご努力と今後の ISOM の発展について話された。

話題は、次期大会、つまり ICOM17 の開催国をどこにするかという事に移り、立候補した台湾に決定された。台湾の陳介甫先生は、謝辞を述べ、台湾の理事の方々の挨拶があった。

なお、今後の国際東洋医学会の方向性や役割についての討議がなされ、それぞれが意見を述べて終了した。

今回の大会の後、国際東洋医学会の果たす役割はますます増大するであろう。各理事はその思いを胸にそれぞれの会場に向かった。

閉会式

全日程を無事終了し、ICOM16 は盛会裡に終了した。閉会式は、通常あまり人は集まらないものであるが、韓国の人のみならず、日本や台湾の人も多く残り、親しい雰囲気のうちに進行した。最後に、金正坤 ICOM16 会頭と崔換英 ISOM 会長がモニュメントに揮毫し、会場の暖かい拍手に包まれて、今回の ICOM が閉幕した。

全体として、極めて格調の高い、内容の充実した ICOM であった。参加者は満足し、高揚感を抱いて帰られたことであろう。

ISOM Japan ニューズレター 2012 年 9 月号
発行日 2012 年 9 月 15 日
編集者 ニューズレター編集委員会
発行者 安井廣迪
発行所 株式会社ジーエー企画
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-7
巌松堂ビル 10F
Email ga-nagao@grace.ocn.ne.jp
ウェブサイト http://isomjpn.umin.jp/

国際東洋医学会日本支部
ISOM Japan

東京都千代田区神田神保町 1-7 巌松堂ビル 10F
株式会社ジーエー企画内
TEL&FAX 03-3292-1071